

# パターン認識と機械学習(上)

## 2.3.1 条件付きガウス分布

2008年6月13日

田中洸一

# 内容

多変量ガウス分布について、2つの変数集合の同時分布がガウス分布に従う



一方の変数集合が与えられたときの、もう一方の集合の条件付きガウス分布もガウス分布

条件付きガウス分布の表現とその平均と共分散について考える

# 定義(1)

- ガウス分布 $N(x \mid \mu, \Sigma)$ に従うD次元ベクトルを $x$ とし、以下のように定義する。

$$x = \begin{pmatrix} x_a \\ x_b \end{pmatrix} \quad (2.65) \quad \text{平均} \quad \mu = \begin{pmatrix} \mu_a \\ \mu_b \end{pmatrix} \quad (2.66)$$

$$\text{共分散} \quad \Sigma = \begin{pmatrix} \Sigma_{aa} & \Sigma_{ab} \\ \Sigma_{ba} & \Sigma_{bb} \end{pmatrix} \quad (2.67)$$

$x$ を互いに素な部分集合 $x_a$ と $x_b$ に分割

## 定義(2)

- 共分散の逆行列  $\Lambda$  についても定義する。

$$\Sigma^{-1} \equiv \Lambda = \begin{pmatrix} \Lambda_{aa} & \Lambda_{ab} \\ \Lambda_{ba} & \Lambda_{bb} \end{pmatrix} \quad (2.68)$$

- 精度行列といい、後に表す式が簡素になるため用いる。

# 条件付き分布の表現方法(1)

$x_b$ を固定し、得られた式を $x_a$ 上の確立となるように正規化する



同時分布 $p(x)=p(x_a, x_b)$ で条件付き分布を求めることができる



だが、

## 条件付き分布の表現方法(2)

その正規化の代わりに、ガウス分布の指数部分の二次形式(※)について考え、正規化係数を求めたほうが効率がいい

$$\text{※ } \Delta^2 = (x - \mu)^T \Sigma^{-1} (x - \mu) \quad (2.44)$$

先ほどの二次形式に、定義したx・平均・精度を対応させる

$$\begin{aligned} -\frac{1}{2}(x-\mu)^T \Sigma^{-1}(x-\mu) = \\ -\frac{1}{2}(x_a-\mu_a)^T \Lambda_{aa}(x_a-\mu_a) - \frac{1}{2}(x_a-\mu_a)^T \Lambda_{ab}(x_b-\mu_b) \\ - \frac{1}{2}(x_b-\mu_b)^T \Lambda_{ba}(x_a-\mu_a) - \frac{1}{2}(x_b-\mu_b)^T \Lambda_{bb}(x_b-\mu_b) \end{aligned} \quad (2.70)$$

$x_a$ の関数と見ると二次形式となっているので、  
条件付き分布もガウス分布となる

平均  $\mu_{a|b}$  と分散  $\Sigma_{a|b}$  を求める  
ガウス分布を次のように表す

$$-\frac{1}{2}(x - \mu)^T \Sigma^{-1} (x - \mu) = -\frac{1}{2} x^T \Sigma^{-1} x + x^T \Sigma^{-1} \mu + \text{const}$$

(2.71) ※constはxとは独立な項

つまり、上の式の右辺の形式に表現すれば、

- ・xの二次の項の係数行列は逆共分散  $\Sigma^{-1}$ と等しい
- ・xの線形項の係数と $\Sigma^{-1} \mu$ が等しい

# $p(x_a|x_b)$ の分散

(2.70)の $x_a$ の2次の項を取り出すと

$$-\frac{1}{2} x_a^T \Lambda_{aa} x_a$$

$x$ の二次の項の係数行列は逆共分散  $\Sigma^{-1}$ と等しいので

$$\Sigma_{a|b} = \Lambda_{aa}^{-1} \quad (2.73)$$

が得られる

# $p(x_a|x_b)$ の平均

(2.70)の $x_a$ の線形の項を取り出すと

$$x_a^T \left\{ \Lambda_{aa} \mu_a - \Lambda_{ab} (x_b - \mu_b) \right\}$$

$x$ の線形項の係数と $\Sigma^{-1} \mu$ が等しいので

$$\begin{aligned} \mu_{a|b} &= \Sigma_{a|b} \left\{ \Lambda_{aa} \mu_a - \Lambda_{ab} (x_b - \mu_b) \right\} \\ &= \mu_a - \Lambda_{aa}^{-1} \Lambda_{ab} (x_b - \mu_b) \quad (\because \Sigma_{a|b} = \Lambda_{aa}^{-1}) \end{aligned}$$

(2.75)

が得られる

# 共分散行列による平均・分散(1)

$p(x_a|x_b)$ の平均・分散を分割された共分散行列  
で表すこともできる

分割された精度行列を分割された共分散行列で表  
す

$$\Lambda_{aa} = \left( \Sigma_{aa} - \Sigma_{ab} \Sigma_{bb}^{-1} \Sigma_{ba} \right)^{-1} \quad (2.79)$$

$$\Lambda_{ab} = - \left( \Sigma_{aa} - \Sigma_{ab} \Sigma_{bb}^{-1} \Sigma_{ba} \right)^{-1} \Sigma_{ab} \Sigma_{bb}^{-1} \quad (2.80)$$

## 共分散行列による平均・分散(2)

(2.79)と(2.80)を分割された精度行列で表した  
平均・分散に代入{(2.73)と(2.75)に代入}

$$\text{平均} \quad \mu_{a|b} = \mu_b + \Sigma_{ab} \Sigma_{bb}^{-1} (x_b - \mu_b) \quad (2.81)$$

$$\text{分散} \quad \Sigma_{a|b} = \Sigma_{aa} - \Sigma_{ab} \Sigma_{bb}^{-1} \Sigma_{ba} \quad (2.82)$$

$$\text{※} \quad \Sigma_{a|b} = \Lambda_{aa}^{-1} \quad (2.73)$$

分散については、共分散行列で表すよりも  
精度行列で表したほうが簡素に表せる